

■食育推進計画の進捗について

くらし 基本方針1 食の楽しさや食への感謝を実感し、豊かな心を形成します

重点的な取り組み 「食を通じたコミュニケーションを実践する」

基本施策 食に興味をもち、食を楽しむ

食に対する感謝の心を身につけ、正しい食のマナーを守る

食を通して人と人をつなぐ共食への意識の向上を図る

◆指標（重点）

◎食育に関心を持つ市民の増加を目指します。

数値目標項目	現状値 第3次計画策定時 (平成27年度)	目標 (令和5年度)
食育に関心がある人の割合	60.0%	90.0%

※出典 平成27年 滋賀の健康・栄養マップ

主な取り組み（担当課）	令和元年度	令和2年度
体験活動やクッキングの実施 (幼児課)	野菜の栽培・収穫・調理 和食の日に合わせた食育体験活動	栽培計画を作成し、 野菜の栽培・収穫・調理を実施
食育推進デーの実施 (食育の日の推進等) (健康増進課)	市内商業施設5店舗にてレシピ配布	市内商業施設にて計400名へ啓発を実施
たんぼのこ体験事業 (農林水産課)	継続実施 対象児童数1,529人	継続実施 対象児童数1,595人
小学校における食育の推進 (スポーツ保健課)	給食感謝デー等継続実施 14校実施	学校給食感謝週間等継続実施 14校実施
地域協働合校推進事業 (生涯学習課)	鮎ずしや茶道体験等食文化に触れる学習の実施、さつまいもの栽培・米づくりの実施	鮎ずしや茶道体験等食文化に触れる学習の実施、さつまいもの栽培・米づくりの実施(文部科学大臣表彰受賞)

【成果】

- ・幼稚園・こども園や小学校では、野菜の栽培・収穫・調理だけでなく、栽培計画を立案し、栽培過程を深く観察することで、野菜の成長を感じ、食への関心を促すことに繋がった。
- ・食育の日の周知と野菜の摂取量増加を目的とした商業施設での取り組みは、健康推進員と連携することで、1人1人に声をかけながら多くの市民に対し、『食育の日』『食育月間』の働きかけをすることができた。

【課題】

- ・関係機関と連携しながら、計画的な取り組みが必要である。

令和3年度の取組

- ・大型商業施設や各関係機関と連携し、コロナ禍における取組方法を検討しながら、継続した取組を実施していく。

さ さえる 基本方針2 望ましい食習慣の形成と実践を促進し、

健康の維持・増進をはかります

重点的な取り組み 「バランスのとれた食事を意識し、実践する」

基本施策 食に関する知識と、自身に合った情報を選択する力を身につける
食を通じた健康づくりへの関心と理解を深め実践する
食育に関連した学習機会の提供など、食育推進運動を積極的に展開する

◆指標（重点）

◎バランスのとれた食事に気をつけている人の増加を目指します。

バランスのとれた食事に 気をつけている人の割合	現状値 第3次計画策定時 (平成27年度)	目標 (令和5年度)
20歳代男性	18.8%	36%
20歳代女性	29.8%	64%
30歳代男性	25.5%	44%
30歳代女性	51.4%	67%

◎野菜の摂取量の増加を目指します。

野菜の平均摂取量	現状値 (平成27年度)	目標 (令和5年度)
20歳以上	270.2g	350g

※出典 平成27年 滋賀の健康・栄養マップ

主な取り組み（担当課）	令和元年度	令和2年度
離乳食レストラン（子育て相談センター）	20回 239組参加	15回 155組参加
食育推進会議の開催（幼児課）	会議開催年6回	会議開催年6回
減塩給食の実施（学校給食センター）	食塩年間平均1.9g	食塩年間平均2.0g
草津歯・口からこんにちは体操（長寿いきがい課）	96団体実施	63団体実施
健康推進員による食育推進事業（健康増進課）	88回 7,159人参加	38回 1,683人参加
市内飲食店との食育推進事業（健康増進課）	市内29店舗	市内26店舗
料理レシピサイト活用の食育の推進（健康増進課）	85レシピ掲載	112レシピ掲載

【成果】

- ・市内飲食店と連携した食育推進事業「草津ベジランチ」では、青年期以降のライフステージに対して、野菜の摂取量の増加を促すことができ、食環境の整備に繋がった。
- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大予防及び蔓延防止の観点から、実施回数や参加者を限定した上で、感染防止対策を講じながら、市民を対象とした食育教室等を継続することで、食を通じた健康づくりについての啓発を実施し、関心と理解を深めることができた。

【課題】

- ・市内飲食店が取組に協力することで、広がりのある取組となるような事業展開の工夫が必要である。
- ・料理レシピサイトの活用方法について、効果的な情報提供を検討する必要がある。

令和3年度の取組

- ・料理レシピサイトの掲載内容について、テーマを絞り、啓発したい内容について明確にした上で情報提供を行うことで、より充実した取組とする。
- ・事業展開を検討しながら、市内飲食店と連携した、食育推進事業「草津ベジランチ」を実施し、野菜の摂取量増加や健康づくりのための食環境整備を目的として、全市的な取組を実施する。

**つなぐ 基本方針3 食文化継承や地産地消によるまちづくりと、
人に安全・自然に優しい食環境づくりを推進します**

重点的な取り組み 「地場産物を認知し、利用する」

基本施策 伝統食や行事食の継承を推進する
 食品の安全・安心について基礎的な知識を習得する
 食環境を意識し、食品ロス削減を図る

◆指標（重点）

◎地場産物を購入するよう心掛けている人の増加を目指します。

数値目標項目	現状値 第3次計画策定時 (平成27年度)	目標 (平成5年度)
地場産物を購入するよう心掛けている人の割合	50.6%	70%

※出典 平成27年 草津市のまちづくりについての市民意識調査

主な取り組み（担当課）	令和元年度	令和2年度
行事食の伝承や旬の食材を 取り入れた給食の推奨（幼児課）	5/5所（園）	5/5所（園）
学校給食における地産地消の推進 （学校給食センター）	6月調査48.0% （県内・市内産含）	6月調査28.4% （県内・市内産含）
小中学校における食育の推進 （スポーツ保健課）	地場産物や伝統食の授業 20/20校実施	地場産物や伝統食の授業 20/20校実施
3010運動+の推進 （資源環境推進課・ くさつエコスタイルプラザ）	・啓発媒体の作成と配布 事業所配布124件 ・イベントでの啓発1回 （約100人参加） ・食品ロス削減講座2回 （約20人参加）	・事業所訪問72件 ・イベントでの啓発16回 （約5,100人参加） ・食品ロス削減講座6回 （150人参加）
環境学習教材貸出事業（くさつエコスタイルプラザ）	7件貸出	4件貸出
多文化の料理教室（まちづくり協働課）	102人参加	事業未実施
市内飲食店との食育推進事業（健康増進課）	市内29店舗	市内26店舗
草津産環境こだわり米推進事業（農林水産課）	11か所(260kg)	2か所(60kg)

【成果】

- ・こども園等で、草津メロン・愛彩菜・ほうれん草など、季節や旬を意識した献立を工夫し、地元食材に触れることで地場産物への関心を高めることができ、地産地消の推進に寄与できた。
- ・学校給食による地場産物の利用は、新型コロナウイルス感染症の影響により、積極的な活用が難しかったが、小中学校における地場産物や伝統食の授業は20校全校で実施することができた。
- ・事業所訪問やイベントでの周知により、3010運動+の啓発を実施し、多くの市民に対して、食品ロス削減の意識向上につなげることができた。また、飲食店との連携により、3010運動+の実践に繋がる取組を実施することができた。

【課題】

- ・引き続き多くの方が、地場産物に触れる機会を増やし、草津市産の野菜（ベジクサ）の周知を行うことと同時に、感染症の拡大防止対策を講じ、安全・安心な取組を実施する必要がある。

令和3年度の取組

- ・地場産物の献立の幅を広げ、園および学校給食における地産地消を推進する。
- ・「草津ベジランチ」において、ベジクサを使用している飲食店について、市民への情報提供を促し、地場産物への意識を高める。

